

年間第28主日

福音朗読 ルカ 17・11-19

2022.10.09

カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

少し前ですけども、若い人とか子どもたちが将来の夢とか「将来何になりたいの？」とかいうことを聞かれたときに、「人にありがとうって言ってもらえる仕事をしたい」ってというような答えをするのが結構多かった時があります。最近あんまり聞きませんけども。それは、ある意味で感心なこと。「ありがとう」って言ってもらうことというのは、誰かの役に立ちたいというような生き方をしたい、そういうような意味で言っているんでしょう。けれども文字通りの意味で「ありがとう」って言ってもらえるかどうかっていうことを人生選択の基準にしたり、自分の行動基準にすると、それはある意味で危険なこともあります。

なぜならば、今日の福音のように、おんなじことを体験しても、おんなじことをしてもらっても、「ありがとう」って言う人と言わない人というわけですから。その中で、こっちがしてあげたことを相手がどのように評価するか自分の生き方や行動の価値があるかないかを預けちゃうならば、相手によって右往左往しなきゃいけない。そういうことになります。

今日の福音の中のイエス様の姿は、相手がどうであれ恵みは与えられるっていう父である神様のお姿を表しています。ほんとの意味での自由ですね。相手に下駄を預けない。イエス様は十人の人を癒しました。そして感謝するために戻ってきたのは一人でした。だから「あーあ。そんなことだったら、この一人だけ癒せばよかったな」というわけではないですね。また、わたしたちはイエス様は神様であるという前提でこの福音書を読んでいるので、初めから誰が感謝する者で誰が感謝しない者かっていうことをご存知の上で、でもすべての人を癒された、というふうに信仰の読み方で言ってもいいわけです。

つまりは、相手が感謝するから求めるものを与える、しないから与えないっていう、相手の出方次第で態度を変える、そこにほんとの自由はない。イエス様はそうではない。そういうものを乗り越えて自由な方です。ほんとの自由、ほんとの愛。そして感謝するために戻ってきた人に対して、「あなたの信仰があなたを救った」(ルカ 17・19) っていうのは、「あなたが救われたのはあなたの中に原因があるんですよ」っていう言い方をしてあげるわけです。一人ひとりが自分の中に与えられている価値に出

会う。「あなたが救われたのは、癒されたのは、わたしのお陰なんです。わたしを離れてはあなたは何にもできないんです」と恩着せがましく言わない。「誰のお陰でしょうね、癒されたのは。わたしのお陰なんです」っていうようなことをくどくど言わない。それが「あなたの信仰があなたを救った」っていう言葉に表れている。もちろん、イエス様の恵みによって癒されたんだけど、でも敢えて。なぜならば、イエス様がこの世にいらっしゃったのは、一人ひとりの人間が自分の中に既に与えられている価値、尊厳に気づき、それによって自由と愛に生きていくためなんです。

だから、いつまでも自分の中に縛り付けるっていうことはない。でも、その上で、自由な決断によって感謝する。何か欲しいから、あるいは何かをしてくれないと困るからっていうことではなくて、自由な決断によってイエスと共に歩む人に出会うことを探していらっしゃる。それがイエス様の歩みですからね。桃太郎のきび団子みたいに「これが欲しかったら付いて来なさい」っていうことじゃない。そこに、相手が自分の足で歩いて行く、ほんとの意味での自立した人間としての相手の自由を尊重するという、ほんとの意味での愛があります。自由な者として相手に関係なく自分のなさることをする。そして相手が自分の支配下とか影響下に留まることなく、相手が自分の価値に目覚め、そして歩いていくっていうことを望まれるっていうような愛なわけですね。

よく、愛しているつもりでいつまでも支配下に留めておくような、そういうような気持、「これだけやってやったのに」とか「恩知らず」とか、そういうようなことになるっていうことは、イエス様のしたこととは反対になってしまうわけです。

だから、わたしたちは、こうしなければならないってことじゃない。ただ、ほんとうに自由に生きたいならば、そして本当に愛したいならば、イエスの姿を見て、そして少しでもイエス様のように真似をしていく。相手の出方にかかわらず愛する。そして愛したことを恩に着せない。相手も自由な者として生きていくことを喜ぶ、あるいはそこに導くとか、支える。そういうことですね。

今日、わたしたちは誰に強制されることもなく、あるいはここに来なかったら将来教会のいろんなこと、例えば納骨堂に入れてもらえないとか(笑)、そういうようなことで集まっているのではないですね。自由なんです。自由な者としてここに集まっている。こうやって、わたしたちが本当の意味でイエス様が示してくださった自由と愛ということを見て、一人ひとりの生き方も影響を頂いて変えられていったらいいなあと思っております。

わたしたち自身がイエス様の呼び掛けに自由に答えているということを恵みとして新たに思い起こしながら、イエスと共に歩む、信仰の歩みを続けて行けたら良いと思います。